造園など手掛けて100年超

頑張る地元企業 53

大木芳樹園

緑の景観づくりに一役

一般家庭での造園工事

伝統と先進技術を融合

明治時代に創業した「百年企業」長い歴史の中で培ってきた伝統の技と先進技術を組み合わせ、造園工事、庭屋を建設した。

宇部の現在地に自社社屋を構え、工事の内容は、一般住宅、企業などの庭づくりや、公園、歩道、道路の中央分離帯、高速道路サービスエリアの植栽、植え替えなど。

庭は設計図を基に、樹木、砂利、庭石、竹垣などを用いて和風、洋風を問わず施工しているが、最近は新規の造園、大掛かりな工事は減少気味。むしろ、庭園の維持管理、植木販売、壁面緑化などの事業を展開。緑の保全と創造に携わり、美しい景観づくりに一役買っている。

四代目の大木秀昭社長(五二)の曾祖父が一八八四年、山口市で個人創業。大正時代に宇部に移り、現在の東新川町で営業を開始。一九六九年に株式会社へ組織変更し、八四年、上宇部にある本社工事の内容は、一般住宅の庭園、公園、歩道、道路の中央分離帯、高速道路サービスエリアの植栽、植え替えなど。

庭は設計図を基に、樹木、砂利、庭石、竹垣などを用いて和風、洋風を問わず施工しているが、最近は新規の造園、公共工事よりも民間の仕事が多い。

いずれの業務でも「生き物」である植物材料を扱うだけに、樹木の種類、特徴、生態など専門的な知識が必要なため、同社では現場で作業に当たる全員が、国が認定する造園技能士と造園施工管理技士の資格を取得。優れた技術と豊富な知識を持つ、緑化工事・維持管理のエキスパートとして、質の高いサービスを提供している。

景気低迷の影響などにより、造園関係の新しい公共工事は年々減少。民間からの発注も少なくなっており、業界を取り巻く環境は厳しい状態が続いている。大木社長は「仕事のより好みをせず、頑張っていく。日々の暮らしの中には、やはり植物、緑は必要だと思うので、自分たちの技術で市民に、癒やしを与えることができれば」と抱負を語り、宇部小野田造園業組合のトップとして「組合員が力を合わせて、学校の校庭芝地化に取り組んでいきたい」と話した。(枡永)

社長プロフィル

大木秀昭(おおき・ひであき)
1958年12月28日宇部市生まれ。神原小、上宇部中、宇部西高、東京農業大卒。東京都内の造園会社勤務を経て、84年に大木芳樹園入社。98年、社長に就任。宇部小野田造園業組合の組合長。

上宇部にある本社

会社概要

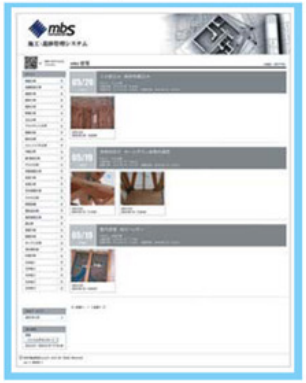
- ▽社　　名　株式会社大木芳樹園
- ▽創　　業　1884年
- ▽本社所在地　宇部市上宇部
- ▽代 表 者　大木　秀昭
- ▽資 本 金　2600万円
- ▽従業員数　8人
- ▽売 上 高　9700万円（2009年8月期）
- ▽電　　話　21−3482
- ▽ファクス　21−3469

施工・進捗管理システム

工事現場の状況を把握

エムビーエスが運用開始

進捗状況を確認できる物件の専用ページ



カメラ付き携帯電話とQRコード活用

宇部市小串のリフォーム業、エムビーエス(山本貴士社長)は、住宅などの工事現場の状況を随時確認することができる「施工・進捗(しんちょく)管理システム」を開発。運用を開始した。カメラ付き携帯電話とQRコードを活用して、現場で撮影した写真を、その場から送信。物件専用のホームページで画像を公開し、工事履歴を明らかにするもので、同社ではシステムの利用拡大に向け、建設、土木業者などに営業を展開すると同時に、公共工事での採用を目指す方針。

施工途中に手抜き工事があったり、建築現場写真が偽装されていたりしても、施主は分からない場合が多いため、建築過程の透明化と開示ができないかと開発。現場の状況を把握できる体制をつくり、安心して納得できる物件を手に入れてもらうのが狙いだ。

システムでは、施工業者は工務店から指定された項目ごとに、携帯電話で工事状況を撮影。エムビーエスの独自技術「スケルトンコーティング」で現場に封印設置されているQRコードを読み込み、その物件のページに接続。IDとパスワードを入力してログインし、撮った画像を送る。

撮影したものを、現場のQRコードを利用して、すぐに送信することで、写真の偽造防止につなげたほか、システムでは撮影日時、送信日時、受信日時を表示。写真と物件との整合性をチェックする体制も構築している。

同システムを使えば、施主は自宅や会社のパソコンから、専用ホームページを通じて日々、施工状況の確認が可能に。工務店などの業者は、施主に写真を公開することで、きちんとした工事を行っているという安心感を与え、信頼関係を構築できるほか、記録した写真の提供や、将来的にはリフォームの営業などに活用できるメリットがある。

システムは既に、ジェイアールエー九州住宅の物件で採用が決定。沖縄県のアパート建築現場でもテスト導入されるなど、業者からの関心は高い。導入費用は三万円から。

山本社長は「いつ、誰が、どのような工事を行ったか、建物が完成するまでのプロセスを知ることができるシステム。公共工事にも採用され、内容や進捗状況を市民が知ることができるようになれば」と話した。(枡永)

経済ニュース

ヒロ建設

韓国製LEDの照明取り扱い

電気代やCO2排出削減

山陽小野田市郡のヒロ建設、丸山浩美社長)は、韓国製LED(発光ダイオード)照明製品の取り扱いを始めた。環境事業の一環として、照明器具から二二減を推進するのが狙いで、白熱球型、蛍光灯型など、さまざまなタイプの製品を用意している。

取り扱っているLED照明

LED照明は、低い消費電力で従来と同水準の照度を保つため、電気代、CO2排出量削減につながるほか、長寿命というメリットを持つ。紫外線を含んでおらず、誘虫指数が低く、害虫などが寄りつきにくい特徴もある。

照明器具を取り扱うに当たって韓国製を選択したのは、同国が世界に先駆けてLED照明の安全規格などの標準化を行い、品質の向上などに国を挙げて取り組んでいるから。同国で最先端技術を有する数社から、独自のルートで輸入している。

製品は白熱球型、蛍光灯型のほか、ダウンライト、投光器など。口金が既存の電球と同じ場合は工事不要で使用でき、口金が異なる場合でも、変換用アダプターを用意している。

価格は既存の電球、蛍光灯などに比べ高値だが、事業所や店舗などで常用灯として一日の使用時間を提示すると、導入費用、減価償却までの期間、電気料金などのデータを作成する。

問い合わせは同社(電話75−0861、ファクス75−0551)へ。電子メールアドレスはweb@hiro-kensetu.net

同社は現在、無料診断をファクスと電子メールで受け付けている。電球の種類、数量、一日の使用時間を提示すると、導入費用、減価償却までの期間、電気料金などのデータを作成する。

問い合わせは同社(電話75−0861、ファクス75−0551)へ。電子メールアドレスはweb@hiro-kensetu.net

県内企業の倒産

5月は8件

帝国データバンク山口支店がまとめた五月の負債額一千万円以上の法的整理による県内企業の倒産件数は、前月比五件増の八件、負債総額は22・4%増の十億四千万円だった。

業種別では、小売業四件、建設業、卸売業各二件。原因はすべて販売不振。地域別では下関市四件、宇部市、萩市、周南市、大島郡各一件だった。

ベンチャー講演会

22日 下関市で

山口銀行を事務局とする産・官・学一体の異業種交流組織、ヤマグチ・ベンチャー・フォーラム(柳屋芳雄会長)の講演会は、二十二日午後五時十分から下関市竹崎町のシーモールホールで開かれる。参加無料。

資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課課長の佐藤悦緒さんが「産官学連携による地域活性化について」をテーマに話す。

会員以外の聴講も可能だが、事前に申し込みが必要。

問い合わせは同行営業推進部内の同フォーラム事務局(電話083−223−3439)へ。(枡永)

29日に宇部地区

安全衛生研修大会

宇部労働基準協会(松前正久会長)の二〇一〇年度宇部地区産業安全衛生研修大会は、二十九日午後一時から文化会館で開かれる。